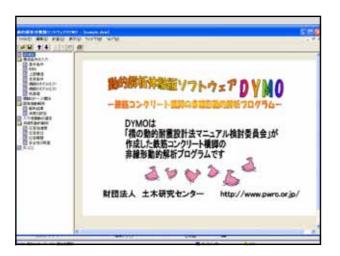


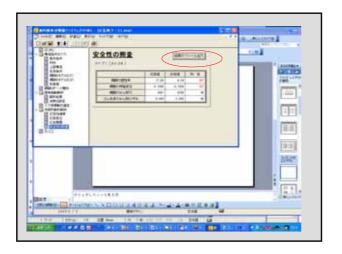
DYMOとは

- ●「橋の動的耐震設計法マニュアル」((財)土木研究センター)に付属する動的解析体験版ソフトウェア
- ●1基の下部構造とそれが支持する上部構造部分に対して、簡単に動的解析を体験することができる。
- ●プログラムは土木研究センターのホームページ (http://www.pwrc.or.jp/)から無料でダウンロード可能
- ●参考資料として、「橋の動的耐震設計法マニュアルー動的解析および耐震設計の基礎と応用」が土木研究センター(電話:3835 3609,e-mail:kikaku@pwrc.or.jp)から販売されているので、適宜、購入すると参考になる。



動的解析結果のディジタルデータを得るためには How can we get digital data of the response?

- ●DYMOをインストールしたフォルダ に"SpecialDYMO.ini"というファイルを作る。空ファイル で良い。
- ●この空ファイルが作られていれば、「非線形動的解析」->「安全性の照査」画面の「結果のファイル出力」ボタンが出てくる。
- ●「結果のファイル出力」ボタンをクリックすると、今開いているデータファイルのあるフォルダー に"OutType1.csv"(タイプ 地震動の結果) と"OutType2.csv"(タイプ 地震動の結果)というファイルが出力される。





DYMOを使った解析

- ●計算例2を読み込む
- ●構造条件の入力ーほとんどはディフォルトデータでよい。 ただし、支承条件は、"固定支承"、"弾性ゴム支承"、"免 震支承"にする
- ●固有振動解析の中では、以下の点を試してみる。✓固有周期、固有振動モード、刺激係数の理解✓減衰の設定では、どの固有振動モードに着目するかを変えてみる。、の値もチェックしてみる。
- ●入力地震動として、道路橋示方書の参考資料に示されている標準波形がすぐ読み込めるようになっているので、このタイプ とタイプ 地震動を使用する。
- ●タイプ 地震動とは、加速度応答スペクトルで約1gの地震動、タイプ 地震動とは加速度応答スペクトルで約2gの加速度である。ただし、地盤種別で異なる
- ●"安全性の照査"の中に"結果のファイル出力"ボタンを押すと、応答値に関するエクセルデータが得られる。これをもとに、自分で、応答波形をプロットしてみる。ただし、動的解析結果のディジタルデータを得るためには、p.8の対応が必要である。
- ●応答波形をまとめて、課題として提出する。